
あの流星へ

楠野さとこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの流星へ

【著者】

NO822A

【作者名】

楠野せと

【あらすじ】

「願い」はとても美しい。しかし同時に「願い」はとても儚いもの。“すぐに消えてしまう”

第一夜（前書き）

小説初書きです。この先がかなり不安ですが、頑張って書きます。

* この小説はオリジナル女の子キャラが出没しますので、嫌な人は見ない方が。

第一夜

風も吹かない静かな夜。

空を見上げれば、一面に広がる星々が転々と夜空を飾り、淋しげに輝いていた。

そんな夜空を一人の少女が窓辺から見上げている。

年は15歳くらいだろうか。

蒼い大きな瞳をパチパチとさせ、ふわふわのブロンドの髪を肩に流すその姿は、まるでどこかの國のお姫さまのようだ。少女の着ていた白いワンピースがさらにそつ思わせる。

「あ……」

瞬間、少女の目の前で星が流れ始めた。流星だ。しかも一つどころではない。

二つ。三つと、数を増やしていく。

少女は瞳を輝かせながら、堅く閉められた窓を勢いよく開けた。とたんに外の冷たい風が部屋へと流れ込んでくるが、それを気にする様子もなく、少女は星々に祈るように細い指を組み合わせ、そつと目を瞑つた。

誰にも聞こえないように少女は、心中で願つた。

『お星さま　私の願いを聞いて

私は今、人を探しているの

私を助けてくれた、とても素敵な人

自分で逢いに行きたいけれど
外に出てはいけないみたいなの

お星さま お願い

どうかあの人に逢わせて…!』

先程と変わらない静けさが辺りを取り巻いた。

天から地へ降るかのようにあつた流星も、いつの間にか消えてしまつていた。

「・・・・・」

少女は静まり返った部屋に小さなため息を一つ吐くと、自分のベッドへと潜り込んだ。

一際輝く星を見ながら横になつた途端に睡魔が襲い、少女は小さな寝息をたてながら眠りに付く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0822a/>

あの流星へ

2010年10月10日03時19分発行